

- 問1 中世の経済活動について述べた次の文のうち、当時の状況を正しく説明しているものはどれか。大陸との貿易によって流入した貨幣の状況を含めて答えなさい。（2023年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 貨幣の使用が全面的に禁止され、米や布を用いた物々交換のみが行われた。 | 2. 地頭がすべての市場を独占したため、寺社の門前での商業活動は衰退した。 | 3. 日本独自の貨幣が大量に鑄造され、大陸への輸出が主な産業となった。 | 4. 皇宋通宝などの宋銭が大陸から輸入され、国内の取引で広く流通した。 |
|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
- 問2 室町時代の「惣」の仕組みや背景について、当時の社会情勢を踏まえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 農民たちが寄合を開いて村の掟を定め、団結して領主への直訴や土一揆を行うこともあった | 2. 室町幕府が農民を支配するために組織した行政機関であり、役人である武士が運営を主導した | 3. 特定の特権を持つ商人たちが結成した同業者組織であり、市場での独占販売権を行使した | 4. 仏教の布教を目的とした宗教的な集まりであり、農業経営や村の政治に関わることはなかった |
|--|---|---|---|
- 問3 14世紀後半から15世紀にかけての琉球王国が行った「中継貿易」の実態を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--------------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1. 中国の絹織物や陶磁器を仕入れ、それを日本や東南アジアの諸国へ転売した。 | 2. 自国で大量に生産した綿織物を、朝鮮半島を通じて北アジアへ供給した。 | 3. 東南アジアから輸入した象牙や香料を、琉球国内でのみ消費する制度を整えた。 | 4. 日本で採掘された銀を独占的に買い取り、ヨーロッパ諸国へ直接輸出した。 |
|--|--------------------------------------|---|---------------------------------------|
- 問4 室町時代に足利義満が明（中国）との間で始めた貿易では、「勘合」と呼ばれる割符が使用されました。このような仕組みが導入された背景にある、当時の東アジア情勢として最も適切な説明はどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 沿岸部で海賊行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別する必要があったため | 2. キリスト教の布教を防ぎながら、幕府が海外貿易の利益を独占しようとしたため | 3. 朱印状を持つ商人にのみ渡航を許可し、東南アジア諸国との取引を管理するため | 4. 平清盛が推進した日宋貿易の形式を継承し、大量の銅銭を効率よく輸入するため |
|--|---|---|---|
- 問5 室町時代に足利義満が行った大陸との貿易において、合札である「勘合」を用いた目的と、その貿易相手の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2020年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|---|--|--|
| 1. 正式な貿易船と海賊である倭寇を区別するために、明と貿易を行った。 | 2. 正倉院に収められたような宝物を幕府が独占するために、朝鮮半島と貿易を行った。 | 3. 平清盛が始めた日宋貿易を継承し、西アジアの品々を輸入するために、宋と貿易を行った。 | 4. 国風文化の影響を排除し、仏教文化を直接取り入れるために、唐と貿易を行った。 |
|-------------------------------------|---|--|--|
- 問6 室町時代の文化の特色について述べた文として、背景や成り立ちが最も適切なものはどれですか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 町人の経済力が向上したことで、浮世絵や歌舞伎といった、庶民の生活や娯楽を題材とした華やかな文化が全盛期を迎えた。 | 2. 唐の文化を積極的に取り入れ、貴族を中心とした大規模な寺院建築や仏像彫刻が奈良の地を中心に多く作られた。 | 3. 禅宗の影響を受け、簡素で深みのある精神性が尊ばれ、水墨画や能などの芸術が武士の支持を得て発展した。 | 4. 西欧のキリスト教文化の影響を受け、活版印刷や遠近法を用いた絵画など、実用的な学問や新しい表現技法が普及した。 |
|---|--|--|---|
- 問7 室町幕府が酒屋や土倉といった業者を保護し、特別な権利を与えていた政治的・経済的な背景を説明したものとして適切なものはどれか。（2026年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. これらの業者から税を徴収することが、幕府にとって極めて重要な収入源となっていたから | 2. 農業の生産性を向上させるための新しい技術を、これらの業者が独占的に開発していたから | 3. 封建的な身分制度を維持するために、武士以外の層が力を持たないよう監視させたから | 4. 海外との貿易を管理するために、これらの業者に全ての輸出入を委託していたから |
|--|--|--|--|
- 問8 15世紀に沖縄本島を統一して成立し、日本や中国、朝鮮半島、東南アジアを結ぶ地理的優位性を活かして繁栄した独立国の名称を答えなさい。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-------------|------------|--------|
| 1. 琉球王国 | 2. 平泉の奥州藤原氏 | 3. 山陽道の諸勢力 | 4. 蝦夷地 |
|---------|-------------|------------|--------|
- 問9 室町時代における政治的混乱と社会の変遷について述べた文として、歴史的事実の順序が正しいものはどれか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 応仁の乱によって幕府の権威が失墜したことを受けて、足利義満が南北朝の統一を行うことで混乱を収束させ、その後有力な守護が大名として各地を支配した。 | 2. 足利義満が南北朝の統一を成し遂げた後、將軍の跡継ぎ問題などを背景に応仁の乱が起こり、実力のある者が上位の者を倒す下剋上の風潮の中で戦国大名が登場した。 | 3. 鎌倉幕府を倒した直後の応仁の乱によって社会が混乱したが、足利義満がこの乱を鎮圧して南北朝の統一を達成し、戦国大名の出現を未然に防いだ。 | 4. 各地で戦国大名による領国支配が進む中で、その対立を解消するために足利尊氏が南北朝の統一を宣言したが、直後に応仁の乱が発生して幕府は滅亡した。 |
|---|--|--|---|
- 問10 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所に集まり、馬の背に荷物を載せて物資の運送を専門に行った業者を何と呼びますか。当時の生活の様子を描いた絵巻物などでは、大きな荷を積んだ馬を引いて歩く人々の姿として表現されています。（2026年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|---------|-------|-------|
| 1. 問丸 | 2. 座の商人 | 3. 馬借 | 4. 飛脚 |
|-------|---------|-------|-------|
- 問11 日本の中世（鎌倉時代・室町時代）において、馬を利用して荷物を運送し、物資の流通に重要な役割を果たした業者を何と呼びますか。（2022年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 土倉 | 2. 問丸 | 3. 馬借 | 4. 酒屋 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問12 北海道の志苔館跡からは、大きな備前焼の甕に入れられた約10万枚にも及ぶ大量の貨幣が発見されました。これらはすべて当時の中国で作られた銅銭でしたが、このように中世の日本において、自国で貨幣を鑄造せずに外国の貨幣を流通させていた背景として最も適切な説明はどれですか。（2016年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 幕府が金貨や銀貨のみを公式の貨幣として認め、銅銭の使用を厳しく制限していたため。 | 2. 和同開珎などの国産貨幣が全国に普及し、納税制度が完全に統一されていたため。 | 3. 物々交換が主流であり、貨幣は主に海外へ輸出するための工芸品として扱われていたため。 | 4. 平安時代末期から宋との貿易が盛んになり、大量の銅銭が流入して国内の流通手段として定着したため。 |
|---|--|--|--|
- 問13 1333年に足利尊氏や新田義貞らの協力によって鎌倉幕府が滅亡した後、後醍醐天皇が「公家も武士もいない、天皇中心の政治」を目指して始めた新しい政治体制を何と呼びますか。（2023年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|----------|---------|-------|
| 1. 明治維新 | 2. 建武の新政 | 3. 大政奉還 | 4. 院政 |
|---------|----------|---------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 皇宋通宝などの宋銭が大陸から輸入され、国内の取引で広く流通した。	鎌倉時代から室町時代にかけては、農業生産力の向上に伴い、余剰産品を交換する定期市が活発になりました。この経済発展を支えたのが、中国（宋）から輸入された宋銭などの貨幣です。当時の日本では自前の貨幣鑄造が衰退していたため、大陸からの輸入貨幣が決済手段として定着し、貨幣経済が地方にまで浸透していきました。
問2	答え 1 農民たちが寄合を開いて村の掟を定め、団結して領主への直訴や土一揆を行うこともあった	「惣」は農民による自治組織であり、村の重要な事項は「寄合（よりあい）」という会議で決定されました。この団結力は単なる村の管理に留まらず、過重な年貢に苦しむ際には、領主に対して減免を求めたり、借金の帳消しを求める「土一揆（つちいっき）」へと発展したりすることもあり、当時の社会において大きな影響力を持ちました。
問3	答え 1 中国の絹織物や陶磁器を仕入れ、それを日本や東南アジアの諸国へ転売した。	琉球王国は地理的な利点を活かし、各地の特産品を別の地域へ運んで売買する中継貿易で繁栄しました。中国（明）から入手した高級な絹織物や陶磁器を、日本や東南アジアへ運び、逆に東南アジアの香料や象牙、日本の刀剣や銀などを中国へ運ぶといった活動を展開しました。これにより、琉球は東アジアの物流の拠点となりました。
問4	答え 1 沿岸部で海賊行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別する必要があったため	室町時代の初期、朝鮮半島や中国沿岸では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が活動し、略奪行為を行っていました。明の皇帝は日本に対して倭寇の取り締まりを強く要求しました。これに応じた足利義満は、明との正式な貿易を行う際、中央に文字を書いて二分割した「勘合」という証明書を持参させ、明側の所持するものと照合させることで、正式な使節と海賊を厳別する仕組みを整えました。
問5	答え 1 正式な貿易船と海賊である倭寇を区別するために、明と貿易を行った。	室町時代、足利義満は明（中国）と国交を結び、勘合貿易（日明貿易）を開始しました。当時、東アジアの海域では倭寇と呼ばれる海賊の活動が激しかったため、明からの要求もあり、正式な貿易船であることを証明するために「勘合」という合札を使用しました。日宋貿易は平安時代末期に平清盛が推進したものであり、唐や正倉院の宝物はさらに古い時代の交流に関連するものです。
問6	答え 3 禅宗の影響を受け、簡素で深みのある精神性が尊ばれ、水墨画や能などの芸術が武士の支持を得て発展した。	室町文化は、足利将軍家が禅宗を保護した背景もあり、禅の精神である「簡素さ」や「静けさ」を重視する傾向があります。この精神性は、雪舟の水墨画や、書院造といった建築様式、茶の湯、そして観阿弥・世阿弥による能などに色濃く反映されています。選択肢にある浮世絵や歌舞伎は江戸時代、唐の影響は奈良時代、キリスト教文化（安土桃山文化）は戦国時代末期の特色であり、室町時代は「武士と公家の融合」および「禅宗による精神性」が鍵となります。
問7	答え 1 これらの業者から税を徴収することが、幕府にとって極めて重要な収入源となっていたから	室町幕府は当初、直轄領からの収入が乏しかったため、都市で経済力をつけた酒屋や土倉に注目しました。彼らに営業上の特権を与える見返りとして、継続的に税（酒屋役・倉役）を納めさせることで、幕府の運営資金を確保する仕組みを作りました。
問8	答え 1 琉球王国	1429年に尚巴志が沖縄本島の勢力を統一して成立させた国です。当時の日本、中国（明）、朝鮮半島、東南アジアを結ぶ中間に位置しており、それぞれの地域の特産物を売買する活動で大きな富を築きました。
問9	答え 2 足利義満が南北朝の統一を成し遂げた後、將軍の跡継ぎ問題などを背景に応仁の乱が起こり、実力のある者が上位の者を倒す下剋上の風潮の中で戦国大名が登場した。	室町幕府の三代将軍である足利義満は、1392年に南北朝の合一（統一）を実現し、幕府の全盛期を築きました。しかし、1467年に始まった応仁の乱により幕府の権威は大きく衰退しました。この乱をきっかけに、実力で主君を倒す「下剋上」の動きが加速し、それまでの守護大名に代わって、自らの力で領国を支配する戦国大名が各地で台頭する戦国時代へと移行していきました。
問10	答え 3 馬借	中世の日本において、馬を利用して物資を運搬することを職業とした人々を馬借と呼びます。彼らは港（津）や関所、宿場といった交通の要点に拠点を置き、陸上交通における流通の主役として活動しました。なお、問丸は港湾での物資保管や中継を行う業者であり、飛脚は主に江戸時代に発達した通信制度を指します。
問11	答え 3 馬借	鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所に拠点を置き、馬を使って荷物を運んだ運送業者のことです。物資の流通が活発になったこの時代において、各地の市場や港を結ぶ重要な物流の担い手となりました。
問12	答え 4 平安時代末期から宋との貿易が盛んになり、大量の銅銭が流入して国内の流通手段として定着したため。	日本では平安時代の中頃に国産貨幣の鑄造が途絶えましたが、平清盛による日宋貿易などを通じて大量の宋銭が流入しました。これが利便性の高い交換手段として中世社会に深く浸透し、その後の元銭や明銭の流入とともに、北海道から九州までの広い範囲で経済活動に欠かせないものとなりました。志苔館跡での発見は、そうした貨幣経済の影響が北方の交易拠点にまで及んでいたことを示す重要な事例です。
問13	答え 2 建武の新政	鎌倉幕府を倒した後に始まったこの政治は、天皇が自ら政治を行う「親政」を理想としていました。しかし、これまでの武家社会の慣習を無視した急進的な改革だったため、混乱を招くことになりました。